| 市町村名 | 久米島町 |
|---|---|

# 令和元年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業名 | 久米島町健康増進事業 | 事業類型 | ☐ 産業振興<br>☑ 定住促進<br>☐ その他 |
| 担当部課名 | 福祉課 | 事業実施（予定）年度 | 平成29～令和元年度 |

**事業内容**

久米島特有の糖尿病を誘発する因子を解明し、糖尿病対策の有効策を確立するため、糖尿病の因子解明に向けた調査研究及びをスマホアプリ等を活用した保健指導システムの構築を行う。

| 先導性に係る取組 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ☑ | 自立性 | ☑ | 政策間連携 | ☐ | 離島活性化を担う人材の確保・育成 |
| ☑ | 官民協働 | ☑ | 事業推進主体の形成 | ☑ | その他 |

**効果発現年度**　☑当年度　☑後年度（ 令和2年度）

**実施方法**　☑直接実施　☑委託　☐補助　☐負担　☐その他（　　）

**予算額・執行額【単位：千円】**（「補助金」＋「市町村負担」ベース）

| | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算の状況 (a) 当初予算額 | 184,134 | 71,233 | 153,657 | | |
| 予算の状況 (b) 予算現額 | 173,784 | 71,233 | 153,657 | | |
| 予算の状況 (c) 増減額 (b-a) | ▲ 10,350 | 0 | 0 | | |
| 予算の状況 (d) 繰越額 | 0 | 0 | 0 | | |
| 予算の状況 A. 計 (b+d) | 173,784 | 71,233 | 153,657 | | |
| B. 執行済額 | 164,514 | 70,932 | 153,287 | | |
| うち補助金充当額 | 131,611 | 56,745 | 122,629 | | |
| 次年度繰越額 | 0 | 0 | 0 | | |
| 執行率 （%） (B/A) | 94.7% | 99.6% | 99.8% | | |
| 予算の状況の説明 | 当初の計画どおり、データ解析及び保健指導システムの構築を行い、事業は適正に執行することができた。不用額370千円については、研究参加者が予定より減少したことによる費用の減である。 | | | | |

**活動目標（指標）及び達成状況**

| 活動目標（指標） | | 達成状況 H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 血液、排せつ物の解析を行い糖尿病を誘発する因子の解明 | 目標 | （ 1件 ） | （ 1件 ） | （ ） | （ ） |
| | 実績 | 1件 | 1件 | | |
| 事業参加者数 | 目標 | （ ） | （ 500 ） | （ ） | （ ） |
| | 実績 | | 347 | | |
| 糖尿病解決のためデジタルデバイスを活用した方策の検討 | 目標 | （ 1件 ） | （ 1件 ） | （ ） | （ ） |
| | 実績 | 1件 | 1件 | | |
| 人工知能によるデータ解析 | 目標 | （ ） | （ ） | （ 1件 ） | （ ） |
| | 実績 | | | 1件 | |
| 糖尿病解決のため保健指導ロジックを確立し、デジタルデバイスを構築 | 目標 | （ ） | （ ） | （ 1件 ） | （ ） |
| | 実績 | | | 1件 | |

達成状況説明

○糖尿病解決のために、個人のヘルスデータをAIで解析し、確立したロジックによる適切な指導コメントを提供するシステムを構築した。
○令和元年12月にすべての被験者の介入期間が終了した。

**成果目標（指標）及び進捗状況**

| 成果目標（指標） | | 基準値（ 年度） | H29年度 | H30年度 | R1年度 | 目標値（R2年度） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 生活介入により、ヘモグロビンA1cの値が改善された町民の数 | 目標 | | （ ） | （ 20人 ） | （ 30人 ） | （ ） |
| | 実績 | | | 11人 | 33人 | － |
| 非介入群で、HbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）の値が改善された被験者の割合 | 目標 | | （ ） | （ ） | （ ） | （ 60% ） |
| | 実績 | | | | | |
| 介入前より体重が1kg以上減少した被験者の割合 | 目標 | | （ ） | （ ） | （ ） | （ 60% ） |
| | 実績 | | | | | |

進捗状況説明

○被験者中、HbA1cが改善したのは33人（25.8%）。内訳は介入群73人中17人（23.3%）、非介入群16人（29.1%）。
○令和2年度に解析を進めており、65歳未満男性の層では3%減量達成のオッズ比が4.55と介入群で高く、特定の層で介入効果が高いことが示された。スマホアプリ使用頻度をモニタリングすることにより、使用高頻度群が有意に体重減少・HbA1c改善を得たことが明らかになった。
○これらの成果は令和2年10月日本糖尿病学会九州地方会で報告。今後、令和3年3月日本肥満学会・日本肥満症治療学会学術集会、同年4月日本内分泌学会学術総会でも発表予定。

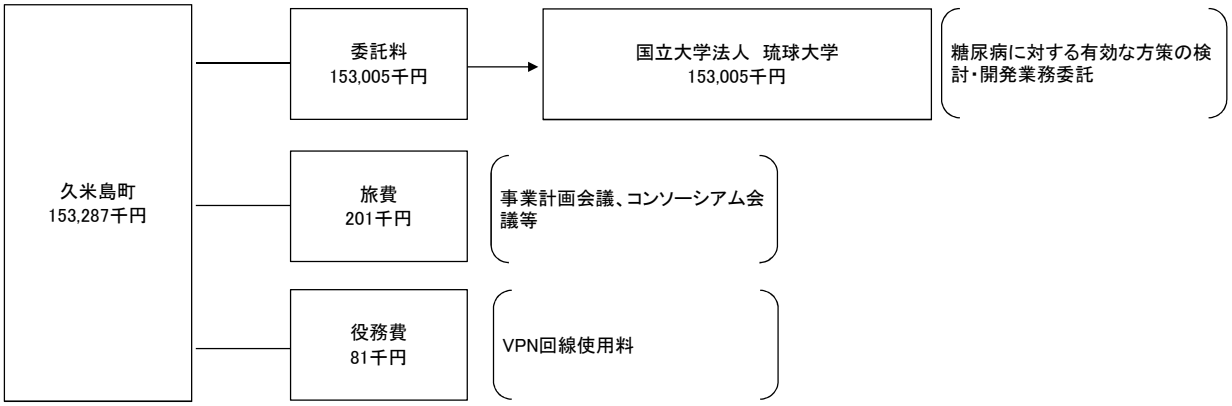
| 取組の検証 | 推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化） | 改善余地の検証（効率の更なる向上の視点） |
|---|---|---|
| | ○保健指導システムについては、運動メニューや食事メニューについてより久米島の特性に合うよう年度初めに改修を行った。<br>○デジタルデバイスを活用した保健指導システムは久米島仕様で構築できたが、介入プログラムは研究用で構成されているため、自動配信するためのプログラムとして安全であるかどうか検証が必要である。 | ○完成した介入プログラムは、琉球大学が検証を重ねた上で安全性が確認された後、実装する。 |

**今後の取り組み方針**

○慢性的な保健師、栄養士などの専門職不足の中、保健指導システムをとおしデジタルデバイスを活用した保健指導を行うことにより、糖尿病等の対策を行う。さらに琉球大学では研究データを引き続き解析し久米島町に提供する。解析結果を基に糖尿病の解決により有効な保健指導を行う。

**資金の流れ**
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

| 総事業費 | 補助対象事業費 | 補助金充当額 | 市町村負担金 | 補助対象外経費 |
|---|---|---|---|---|
| 153,287 | 153,287 | 122,629 | 30,658 | 0 |




| 資金の流れ、費目・使途の点検評価 | 評価 | 点　検　項　目 | 評価に関する説明 |
|---|---|---|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | 委託先は「久米島町健康増進事業」を効率的に営み、優れた成果を達成することを目的としたコンソーシアム構成員であり妥当である。また地方自治法施行令第167条の2項第1項の規定により随意契約としている。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | 予算の積算については、見積書を厳正に精査した。また、不用額は事業費の1%以下であり、適正な規模であると考える。 |
| | － | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | － |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | 費目・使途に関しては、予算要求時に財政担当の査定を受けており、かつ検収時において確認を行い適性であった。 |

| 市町村名 | 久米島町 |
|---|---|

# 令和元年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業名 | 久米島の産業魅力向上プロジェクト事業 | 事業類型 | ☑ 産業振興 / ☐ 定住促進 / ☐ その他 |
| 担当部課名 | 商工観光課 | 事業実施（予定）年度 | 平成29～令和元年度 |
| 事業内容 | 島内事業者の経営改善及び新規事業創出を図るため、セミナー開催や専門家派遣等の支援を行う。 | | |

| 先導性に係る取組 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ☐ | 自立性 | ☑ | 政策間連携 | ☑ | 離島活性化を担う人材の確保・育成 |
| ☐ | 官民協働 | ☑ | 事業推進主体の形成 | ☐ | その他 |

| | |
|---|---|
| 効果発現年度 | ☑当年度　☐後年度（　　年度） |
| 実施方法 | ☐直接実施　☑委託　☐補助　☐負担　☐その他（　　） |

**予算額・執行額【単位：千円】**（「補助金」＋「市町村負担」ベース）

| | H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 予算の状況 (a) 当初予算額 | 19,561 | 9,715 | 11,908 | | |
| 予算の状況 (b) 予算現額 | 19,561 | 9,715 | 11,908 | | |
| 予算の状況 (c) 増減額(b-a) | 0 | 0 | 0 | | |
| 予算の状況 (d) 繰越額 | 0 | 0 | 0 | | |
| 予算の状況 A. 計(b+d) | 19,561 | 9,715 | 11,908 | | |
| B. 執行済額 | 12,889 | 8,664 | 11,249 | | |
| うち補助金充当額 | 10,311 | 6,931 | 8,998 | | |
| 次年度繰越額 | 0 | 0 | 0 | | |
| 執行率（%）(B/A) | 65.9% | 89.2% | 94.5% | | |
| 予算の状況の説明 | 概ね当初計画通りの予算執行であった。不用額659千円は打合せやセミナー、勉強会等を包括的に実施できたため、旅費等事務局費用が計画より数量（回数等）を変更（減）したことによる執行残である。 | | | | |

**活動目標（指標）及び達成状況**

| 活動目標（指標） | | 達成状況 H29年度 | H30年度 | R1年度 | R2年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 企業ブランディング支援対象社数 | 目標 | （ 3社 ） | （ 3社 ） | （ 3社 ） | （ ） |
| | 実績 | 3社 | 3社 | 4社 | |
| 中核人材育成支援（研修会、勉強会、ワークショップ等）実施回数 | 目標 | （ 3回 ） | （ 3回 ） | （ 3回 ） | （ ） |
| | 実績 | 3回 | 3回 | 4回 | |
| 中核人材育成支援（研修会、勉強会、ワークショップ等）参加企業数 | 目標 | （ 5社 ） | （ 5社 ） | （ 5社 ） | （ ） |
| | 実績 | 5社 | 5社 | 3社 | |

説明状況達成：
○企業ブランディング支援については、これまでの事業実績が認知された成果から希望する企業が増え目標を上回った。
○中核人材育成支援については、複数回開催への参加を危惧する企業が多く、目標を下回る実績となった。

**成果目標（指標）及び進捗状況**

| 成果目標（指標） | | 基準値（ 年度） | H29年度 | H30年度 | R1年度 | 目標値（ 年度） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| クラウドファンディング（成立）件数 | 目標 | | （ ） | （ ） | （ 4件 ） | （ ） |
| | 実績 | | 0件 | 0件 | 1件 | |
| 経営改善支援を受けた者のうちアンケートにより経営改善に必要な知識、ノウハウが習得できたと回答した割合 | 目標 | | （ ） | （ ） | （ 80%以上 ） | （ ） |
| | 実績 | | | | 87.5% | |
| クラウドファンディングを実施した企業の目標支援金額達成率 | 目標 | | （ ） | （ ） | （ 100% ） | （ ） |
| | 実績 | | | | 100% | |
| 【参考指標】中核人材育成支援（研修会、勉強会、ワークショップ等）参加者数 | 目標 | | （ ） | （ 20人 ） | （ 20人 ） | （ ） |
| | 実績 | | 44人 | 15人 | 28人 | |

進捗状況説明：
○多くの町内企業・事業所のブランディングや中核人材の育成に取り組み、生産性の向上や企業戦略に結び付けることができ、地域産業の魅力化や今後の発展に寄与することができた。
○企業等にとって新たな資金調達手段となる「クラウドファンディング」についても、セミナーや研修会等で手法や知見を広げることができた。

| 取組の検証 | 推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化） | 改善余地の検証（効率の更なる向上の視点） |
|---|---|---|
| | ○小規模や個人事業者が多く、集合体でのセミナーや研修会開催に苦慮した。 | ○各企業・事業所のブランディングや成長に結び付けるため、各々の企業・事業所単位での取り組みを促進、充実させることが必要。<br>○本事業で習得した知識を活かし、各企業・事業所において取り組める環境を構築させることが必要。 |

**今後の取り組み方針**

○本事業は令和元年度で完了となるが、事業に参加した企業・事業所のフォローアップに取り組み、本事業の成果を今後の地域活性化に活用していく。

**資金の流れ**
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

| 総事業費 | 補助対象事業費 | 補助金充当額 | 市町村負担金 | 補助対象外経費 |
|---|---|---|---|---|
| 11,249 | 11,249 | 8,998 | 2,251 | 0 |

| 資金の流れ、費目・使途の点検評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|---|---|---|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | 事業目標達成に必要なノウハウ、スキル、体制が整備されており事業実施先として最適な事業者を選定した。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | 見積り精査のうえ、予算を編成した。また、不用額は事業費の１割未満であり適正な規模であった。 |
| | － | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | － |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | 事業目的を達成するために必要な費目で予算化してあり妥当である。また、予算要求時に財政担当の査定を受けており、検収時（完了検査）において確認を行い適正であった。 |

| 市町村名 | 久米島町 |
|---|---|

# 令和元年度沖縄離島活性化推進事業費補助金検証シート

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業名 | 久米島町電子図書館実証事業 | 事業類型 | ☑ 産業振興<br>☑ 定住促進<br>☐ その他 |
| 担当部課名 | 教育課 | 事業実施（予定）年度 | 平成30～令和2年度 |
| 事業内容 | 電子図書館の効果的な運営方法、利用促進手法、住民のニーズ等を検証する。 | | |

| 先導性に係る取組 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| ☐ | 自立性 | ☑ | 政策間連携 | ☐ | 離島活性化を担う人材の確保・育成 |
| ☐ | 官民協働 | ☑ | 事業推進主体の形成 | ☑ | その他 |

| | |
|---|---|
| 効果発現年度 | ☑当年度　☐後年度（　　年度） |
| 実施方法 | ☐直接実施　☑委託　☐補助　☐負担　☐その他（　　） |

**予算額・執行額【単位：千円】**（「補助金」＋「市町村負担」ベース）

| | | H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 | 年度 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 予算の状況 | (a) 当初予算額 | 6,293 | 3,977 | | | |
| | (b) 予算現額 | 6,293 | 3,977 | | | |
| | (c) 増減額 (b-a) | 0 | 0 | | | |
| | (d) 繰越額 | 0 | 0 | | | |
| | A. 計 (b+d) | 6,293 | 3,977 | | | |
| B. 執行済額 | | 6,128 | 3,977 | | | |
| うち補助金充当額 | | 4,902 | 3,181 | | | |
| 次年度繰越額 | | 0 | 0 | | | |
| 執行率（%）(B/A) | | 97.4% | 100.0% | | | |
| 予算の状況の説明 | | 当初の計画通り、本町イベント会場にて電子図書館実証及び利用促進を図ることができ、事業は適正に執行できた。 | | | | |

**活動目標（指標）及び達成状況**

| 活動目標（指標） | | 達成状況 H30年度 | R1年度 | R2年度 | R3年度 |
|---|---|---|---|---|---|
| 実証実験及びアンケート実施 | 目標 | （　1件　） | （　1件　） | （　　） | （　　） |
| | 実績 | 1件 | 1件 | | |

達成状況説明
○本屋や図書館のない町民らに対して、電子図書館を活用し、読書の機会を提供することができた。
○町広報誌やFMくめじまにて情報を発信するとともに、町内各所に利用促進ポスターを掲示することで電子図書館の周知を図った。
○町イベント会場でタブレット5台を活用した利用体験と町内5小・中学校で電子図書館の利用促進につなげるための聞き取り調査を行った。

**成果目標（指標）及び進捗状況**

| 成果目標（指標） | | 基準値（　年度） | H30年度 | R1年度 | | 目標値（R2年度） |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 電子図書館が整備されたことで、利便性の向上が図られた割合（＊R1閲覧回数／H30閲覧回数）<br>822／1019（対前年度比） | 目標 | | （　　） | （　80%以上　） | （　　） | （　　） |
| | 実績 | | | 80.6 | | |
| 電子図書館が整備されたことで、読書時間が増えた割合（＊R1貸出冊数／H30貸出冊数）<br>458／538冊（対前年度比） | 目標 | | （　　） | （　80%以上　） | （　　） | （　　） |
| | 実績 | | | 85.1 | | |
| 【参考指標】<br>電子図書館利用者数（利用登録者数） | 目標 | | （　－　） | （　－　） | （　　） | （　1,200人　） |
| | 実績 | | 286人 | 359人 | | |

進捗状況説明
○事業計画と合わせて利用促進体験イベントを4回開催し、利用体験や登録を呼びかけ、電子図書館に関する周知を図った結果、令和元年度実績で閲覧数822件の閲覧に対して458冊が貸し出された。また、令和元年度時点での利用登録者数は359人となっている。
○利用者を対象としたアンケートを実施し、「利便性の向上が図られた」と回答した割合は80.6%であり、また、「読書時間が増えた」と回答した割合は85.1%であり、それぞれ目標を達成した。
○年代別統計で30～50代の利用者が約71%となっており、土日の休日に利用される結果が得られたことから、少ない余暇時間の中で満足して利用されていることが窺える。

| 取組の検証 | 推進上の留意点（推進上の問題、外部環境の変化） | 改善余地の検証（効率の更なる向上の視点） |
|---|---|---|
| | ○利用促進イベントの開催月は、電子書籍の閲覧や利用貸出は多いものの、それ以外の月は伸び悩んでいる。<br>○初年度アンケートに加えて、令和元年度は学校図書館司書への聞き取り調査を行ったところ、本町電子図書館を知っているものの利用していないとの結果が得られた。<br>○10代の登録や利用が少ない原因として、モバイル端末の利用者が少ないこと、通信料を使いたくない子どもらが多いことが聞き取りで得られた。 | ○学校現場への聞き取りから読書習慣が高く、調べ物もインターネットを使用するとの回答が得られたことから、調べ学習に適したコンテンツを充実させるとともに、教職員や児童らに活用方法を提供する必要がある。<br>○令和2年度に開館する複合型防災・地域交流拠点施設の図書利用と併せて、電子図書館の利用受付を行うとともに、タブレットと施設機器を活用して更なる利用促進を図る必要がある。<br>○電子図書館の利用促進を図るためには、島内WiFiの環境整備を行う必要がある。 |

**今後の取り組み方針**

○事業で調達するコンテンツとは別にデジタル化された自治体の独自資料や地域資料を電子図書館で充実させることで、調べ学習や学校等での利用促進につなげる。
○次年度が事業最終年度であることから、利用体験イベントや電子図書館サイトにおいて利用アンケートで得られた課題や取組状況を整理し、事業完了報告書に取りまとめる。
○コロナウィルス感染拡大に伴い、図書館等の利用が制限されていることから、図書館に来られない状況でも利用できる電子図書館の利点を活かして読書や学習環境を整備を図る。

**資金の流れ**
（資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する）（単位：千円）

| 総事業費 | 補助対象事業費 | 補助金充当額 | 市町村負担金 | 補助対象外経費 |
|---|---|---|---|---|
| 3,977 | 3,977 | 3,181 | 796 | 0 |

| 資金の流れ、費目・使途の点検評価 | 評価 | 点検項目 | 評価に関する説明 |
|---|---|---|---|
| | ○ | 支出先の選定方法は妥当か。 | 支出先は初年度に電子図書館システム構築及び実証事業委託業者であり、見積内容を精査した上で選定していることから、妥当であったと考える。 |
| | ○ | 予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。 | 積算に当たって専門業者より徴収した見積を精査し、事業を執行するために必要額を計上したことから、適正規模と考える。 |
| | － | 受益者との負担関係は妥当であるか。 | － |
| | ○ | 費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。 | 費用、使途ともに積算及び事業経過画策定時において検証していることから、実証事業の目的に照らし合わせて、必要であったと考える。 |